

高齢者・自死遺族等の実態調査（ハイリスク者への相談支援事業）

【岡山県】

（実施主体）岡山県・岡山市

（基金事業メニュー）強化モデル事業

（実施期間）平成 21 年度～23 年度

（実績額）平成 23 年度 3,440 千円

〔事業の背景・必要性・目的〕

自殺予防に向けて支援が望まれる、いわゆるハイリスク者に対する相談支援体制の整備や介入方法の確立とあわせ、施策立案のための基礎資料の取得を目的とする。

〔事業の内容〕

当該事業の対象者を、①救急病院受診者 ②精神科医療機関受診者 ③自死遺族 ④高齢者及びその家族とし、岡山市と共同で相談支援や調査等を実施した。調査は、対象者へのアンケート送付、病院受診者や相談支援対象者へのインタビューなどの手段により実施した。

〔事業実施に当たっての運営体制等〕

○岡山県実施

- ・県内（岡山市以外）における高齢者及びその家族に対する調査

○岡山市実施

- ・市内における救急病院受診者、精神科医療機関受診者に対する調査
- ・市内における高齢者及びその家族に対する調査

○岡山県・岡山市共同実施

- ・県内の自死遺族に対する調査
- ・調査結果の分析

〔事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点〕

今回実施した様々な調査のうち、高齢者とその家族への調査については興味深い結果を得ることができた。

この調査は、地域との関わりと心の健康の関係を調査するため、3市町の65歳以上の住民を対象としてアンケート送付により実施した。地元市町の協力もあり、回収率が非常に高く（65%）、貴重なデータを得ることができた。

分析の結果、まだ追加調査が必要な部分もあるが、「愛育委員・栄養委員・民生委員といった方々の訪問や声かけを受けている人は、そうでない人と比べ抑うつ・不安傾向、希死念慮、主観的不健康を感じている人が統計学的に有意に少ない」との結果であった。

国のパンフレットなどでは、ゲートキーパーの役割の一つ「気づき」の中で声かけを挙げているが、ハイリスク者の発見・把握が主な趣旨となっている。岡山県では24年度よりゲートキーパーの

自殺の実態を明らかにする

育成に取り組むこととしているが、今回の調査を受け、育成にあたっては、声かけに「ハイリスク者の減少」という視点も加えて取り組みたい。

(問合せ先) 岡山県保健福祉部健康推進課

TEL : 086-226-7330

URL : <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/36/>